

【巻頭言】

『福祉社会開発研究』第5号 発刊に寄せて

東洋大学福祉社会開発研究センター長
古川 孝順



『福祉社会開発研究』第5号をお届けいたします。当センターは5年間の事業となっており、今年度は最終年度となりました。

当センターでは、人間生活の安全・安心、人格の尊厳と人権の保障を基本的な理念とする、持続可能な福祉社会の開発方法と、その実践過程に関する総合的研究に取り組んでまいりました。当センターの研究の柱である二つのプロジェクト「自治体福祉・保健計画と地域における福祉社会の形成」・「中山間地域の振興に関する調査研究—中越地震の被災地・長岡市山古志地区の復興計画の事例に即して—」は、関係各位のご協力、ご指導・ご鞭撻によるものと存じております。この場を借りて、心より御礼申し上げます。

本号では、昨年度に引き続き、東京都墨田区・千葉県八千代市（プロジェクト1）、新潟県長岡市山古志地区（プロジェクト2）をフィールドとした実態調査・研究を報告しております。

最終年度となりましたが、これまでの研究蓄積の発展に向け、昨年3月の東日本大震災における被災地の復興、また、災害対策を含めた活動が今後求められていると考えております。

皆様の忌憚のないご批判・ご教示をよろしくお願い致します。